# 教育委員会コラム Vol.11

## 教育長室の窓から

### 「小１プロブレム」「中１ギャップ」ってご存知ですか？

新しい学校生活のスタートには、期待とともに不安が伴います。新たに求められる行動様式、授業形態等の違いから、戸惑ってしまう子どもたちも多いかと思います。この時期に教育界で話題になるのが、校種が変わる時期におこる問題、「小１プロブレム」「中１ギャップ」です。

#### 小１プロブレム

入学したばかりの一年生がなかなか集団行動になじめない・授業中 45 分間座っていられない・先生の話が聞けないなど、学校生活になかなか適応できない状態が数ヶ月続くこと。

本町も含め多くの小学校などでは「スタートカリキュラム」を導入しています。

スタートカリキュラムとは、小学校入学当初（4月～5月）に幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜるなど、学びやすい環境づくりをすることを生活科等を中心に行っています。

#### 中１ギャップ

学級担任が中心の小学校から、専科担任制が基本の中学校になり、学習方法、定期テスト、部活動等、教育課程の編成理念が異なるための変化に、生徒も保護者も戸惑ってしまうことでおこる問題。

入学当初のオリエンテーション等を通して、「中学生としての心構え」としての行動規範の確認、定期テスト等への対応を含め計画と見通しを持った学習への対応、部活動への対応等、必要なしくみと場を整え生徒の状況に応じた適切な働きかけを行っています。

新年度の始まりにあたり、校種間の接続の時期におこる問題について取り上げてみましたが、プロブレムもギャップも、子どもの成長にとって必要なこととしてとらえ、ステップアップのチャンスとしていくことが大切ではないかと思います。

## 教育長のちょっといい話

### 学校方言って？

新入生の子どもたちも学校の独特な言葉？に慣れてきたかと思います。ところで、授業と授業の間の休憩時間を「休み時間」と言うのが一般的ですが、愛知県では休み時間のことを「放課」と言うそうです。普通の休み時間を「10 分放課」２時間目と３時間目の長い休み時間を「大放課」給食のあとの休み時間を「昼放課」などと言っています。もともと「放課」は「課（授業）を放つ」ことを指し、明治期には、休み時間を意味する言葉として使われたそうですが、大正期以降「全授業を終える」という意味で「放課後」という言葉が作られ、「放課」という言葉は使われなくなったそうですが、愛知県だけは休み時間の意味で使われ続けられ、同県の学校方言になっているそうです。ちなみに、私は、２時間目と３時間目の間の長い休み時間を「業間休み」（福島県の学校方言）と言っていました。珍しい例として、福井県では「大休み」石川県では「長休み」広島県では「大休憩」と言うそうです。全国各地に方言があり、地域の文化を作る重要な要素と言われていますが、その中で、特に学校で使用されることの多い言葉を学校方言と言っています。学校方言は、学校を卒業してしまうと、在学中の言葉づかいを話題にする機会が少なくなり、地域による違いが気付かれにくいと言われています。